

## 序

「東南アジア青年の船」事業は、日本とASEAN(東南アジア諸国連合)各の青年が船内や訪問国で生活を共にする中で、討論、ホームステイ等様々な活動を通じて、各文化の理解を深め、友好と相互理解を深めるとともに、国際的視野を広げ、国際化が進展する社会の各分野で指導性を發揮することができる青年を育成することを目的としています。

本事業は、昭和49年に日本とASEAN加盟国との共同事業として発足し、今回で42回目の実施となりました。参加青年は、今回の309名(日本青年37名、ASEAN各国青年272名)を加え、合計11,572名となりました。その中でASEAN各国からの参加青年数をみると10,002名となり、1万人を超すASEAN各国の青年が日本青年との交流に参加したことになります。このように、今や「東南アジア青年の船」事業は日本とASEAN各国との友好の象徴と言える存在になっています。

平成27年10月から12月にかけて行われた今回の事業では、ラオスにおける初のホームステイの実施、マレーシアのコタキナバルへの20年ぶりの寄港などを行ってまいりました。そして、各訪問国活動とも、各政府等の御尽力により、成功裡に事業を実施することができました。

また、参加青年は訪問国において、表敬訪問や視察、地元青年との交流を通じて、訪問国に対する理解を深め、船内では、各国に共通した課題についての討論、各国紹介等の多様な活動を実施し、相互理解を深めたことと確信しております。加えて、各の青年は本事業で得た知識や経験に基づき、それぞれ帰国後に実施する事後活動を自ら企画し、発表しています。参加青年がこの計画を実践することで更なる成長をし、本事業を通じて培ったネットワークを活かし、各国、地域、更に世界において国際交流活動や社会活動に取り組んでいってくれることを期待しています。

この報告書は、本事業の参加青年が日本国内、船内及び各訪問国で行った様々な活動を記録したものです。また、本事業に対する各国首脳等のメッセージや参加青年の評価も収録しています。この報告書を通じ、本事業の成果を御理解いただくとともに、今後の本事業への一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた参加各国の政府関係者、各事後活動組織とそのメンバーである既参加青年、ホストファミリーの皆様並びに我が国の外務省を始めとする関係省庁、地方公共団体及び青少年団体の関係各位に、心から御礼申し上げます。

平成28年3月

内閣府青年国際交流担当室長  
安田 貴彦